

## 第 1 回検討委員会 (R6. 7. 17) における委員からの意見に対する考え方

区分	質問及び意見 (委員名)	考え方
調査全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 最悪の被害想定だけを出すのではなく、5 年 10 年をかけて県の対策が進むにしたがって被害がどれだけ小さくなるか、見せ方も含めて議論できたらよいと思う。また、前回の被害想定を評価し、次に生かすようなプロセスがあってもいいと思う。(藤原委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 過去の大規模地震を踏まえ、今回新たに、L1 規模の地震・津波を設定(全割れ・宝永地震、半割れ・安政地震)し、検討を行う。</li> <li>● 計画している堤防等の耐震工事等の完了後については、前回調査後に対策が進んだ事項を取りまとめ、現状と対策完了後の 2 パターンの検討を行い、対策の効果を確認する。</li> <li>● 建物被害については、耐震化率の変化がどの程度被害に影響するか確認する。</li> </ul>
調査全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 前回の被害想定をフィードバックして、次の想定に生かすことが重要。(今井委員)</li> <li>● 香川県では、外海に比べて津波の当たり方が違うなど、地域特性を踏まえて評価したい。(今井委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 前回調査後に対策が進んだ点を被害想定への推計に反映させる。</li> <li>● 瀬戸内海全体・四国全体をモデル化した上で検討を行い、地域特性を踏まえた評価とする。</li> </ul>
調査全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 前回の被害想定から対策が進んで被害がどれくらい軽減するかを示すことが重要(防潮堤等の整備による被害の減少効果など)。(馬場委員)</li> <li>● 最悪の想定である L2 だけでなく、現実に起こりうる L1 の被害想定も出していく必要があると考える。(馬場委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 前回調査後に対策が進んだ点を整理し、対策の効果がわかるように評価する。</li> <li>● 過去の大規模地震を踏まえ、今回新たに、L1 規模の地震・津波を設定(全割れ・宝永地震、半割れ・安政地震)し、検討を行う。</li> </ul>
調査全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 能登半島地震において斜面崩壊や道路の寸断が顕著だったため、そこをどう評価するか考える必要がある。(長谷川委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 前回調査では、斜面崩壊は定性的な評価のみであった。今回調査では、国土地理院による地震時地盤災害推計システム (SGDAS) の手法を用いて、斜面災害発生の可能性のあるエリアの推計を行う。</li> </ul>
調査全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 揺れがどれくらい続くため、どれくらい液状化になるとか、分かりやすく伝えられたらよい。直下型地震の評価について、能登半島地震を踏まえて、整理の仕方について考えたい。(高橋委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 南海トラフ地震は揺れの大きさに加え、継続時間の影響も大きいことから、県保有の施設の設計で有効応力解析を実施しているものがあれば、それらを確認し、継続時間の影響を把握する。</li> <li>● 直下型地震については、国が取りまとめているガイドライン等を参考に検討する。</li> </ul>

区分	質問及び意見（委員名）	考え方
調査全般	● 能登半島では断水が非常に長く続いた。道路の復旧が長引けばその分、ライフラインの復旧も遅れるので、道路の被害とか他の被害を絡めて出せると、対策につながられると思う。（野々村委員）	● 定量的には難しいと考えるが、能登半島地震を受けた国の評価を踏まえて定性的な評価として検討する。
調査全般	● 被害想定には幅があるが、こういう対策をしたらこれくらい防げるなど、希望が持てるような被害想定を出せたらよい。（長谷川委員）	● 減災対策を反映した減災効果を評価する。
調査全般	● 定量的に対策の効果を把握できると、今後の対策の数値目標につながられると思う。（藤原委員）	● 減災対策を反映した減災効果を評価する。
対象地震	● 対象とする地震は、厳しいケースと普通のケースと、2段階示すことが大切。また、中央構造線はいくつかのセグメントに分かれていて、香川県に近い部分以外で地震が発生し、連動して地震が発生することが考えられるため、その扱いを考えられたらと思う。（藤原委員）	● 過去の大規模地震を踏まえ、今回新たに、L1 規模の地震・津波を設定（全割れ・宝永地震、半割れ・安政地震）し、検討を行う。 ● 中央構造線断層帯については、香川県直下の区間が連動するケースを設定する。
対象地震	● 南海トラフの過去の地震は時間差やマグニチュードも含めて多様性があるため、幅を持って検討することが必要。（金田委員長） ● 頻度の高い地震については優先的に検討すべきことと考える。昭和や安政、宝永の南海トラフ地震を評価し、今回規模の地震が起これば、どの程度被害が発生するか考えるとよい。（金田委員長）	● 過去の大規模地震を踏まえ、今回新たに、L1 規模の地震・津波を設定（全割れ・宝永地震、半割れ・安政地震）し、検討を行う。
被害予測	● 南海トラフ臨時情報の認知度はまだまだ低いので、それをきちんと理解して避難行動につなげることも被害軽減につながるのではないかと考える。（金田委員長）	● 発生頻度の高い L1 規模の地震は、臨時情報を踏まえた地震名とすることで、県民への理解を促進させる。
被害予測	● 被害想定 の時間軸の考え方を入れていくことが大切と考える。（藤原委員）	● 時間軸を入れた被害シナリオとして整理する。
被害予測	● 香川県では南海トラフ L2 や中央構造線の地震では震度 6 強が想定されるので、能登半島の知見を取り入れられたらと思う。（長谷川委員）	● 能登半島地震を受けた国の評価を踏まえて検討を行う。
被害予測	● 南海トラフ地震が発生した際に、香川県は太平洋側に比べて若干震度は小さいが、揺れの継続時間は長くなる。液状化や土砂災害が避けられないので、居住実態を反映する必要がある。（藤原委員）	● 液状化危険度や斜面災害危険度の高い地域の居住人口を踏まえ被害想定を算定する。

区分	質問及び意見（委員名）	考え方
被害予測	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ため池が決壊した場合、平野に水が流れ込んでくる。どのため池が決壊するか定量的な評価は難しいと思うが、定性的な評価は被害想定に入れていきたいと思う。（野々村委員）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 定性的な評価として検討する。</li> </ul>
データ項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 津波が河川を遡上したり、地震により護岸が壊れて、そこから浸水したりすることが想定される。そういったことが評価できるようなデータの収集をしてもらえたらと思う。（今井委員）</li> <li>● 耐震化のできていない空き家のがれき化し、避難を阻害することも考えられる。人が住んでいないと耐震化の評価ができないと思うが、可能な限り評価できたらと思う。（今井委員）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 河川、港湾等のデータは最新のデータを収集して検討を進める。</li> <li>● 空き家を特定することが難しく、空き家率などから建物被害の内数を出す推計方法とする。加えて、定性的な評価として、空き家が影響を及ぼす被害を整理する。</li> </ul>
データ項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ボーリングデータを収集し計算を精緻にできるとよい。ボーリングデータの中に地下水面の高さの情報があれば、液状化の評価も精度が上がると考える。（長谷川委員）</li> <li>● 国土地盤情報センターが収集・データベース化したボーリングデータを活用してほしい。（長谷川委員）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 可能な限り多くの地点のボーリングデータを収集する。</li> </ul>
被害予測	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 道路の被災となると橋梁が中心となっており、斜面や盛土の被害想定がノーマークとなっている。土砂災害警戒区域は保全対象の民家がないと指定されないため、道路のみ被災するおそれがある箇所が見落とされているので、そういった場所での斜面の崩壊について国の動きを見ながら香川県でも検討しないといけない。（長谷川委員）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 能登半島地震を受けた国の評価を踏まえて検討を行う。</li> <li>● 斜面災害については、国土地理院による地震時地盤災害推計システム（SGDAS）の手法を用いて斜面災害発生の可能性のあるエリアの推計を行う。</li> </ul>
被害予測	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ライフラインの被害に関して、経過日数毎の復旧率が示されると思うが、重機やマンパワーの数も含めた推計ができると、よりリアルな評価になると考える。（野々村委員）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 県内で所有する重機や対応できる人材の整理が可能か検討する。</li> <li>● 過去の震災における復旧状況などから整理が可能か検討する。</li> </ul>
被害予測	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 津波で建物のがれきが生じることはあまりないと思うが、強震により空き家のがれき化し、津波のがれきを運ぶ可能性はあると思う。強震によってどの辺りでがれきが発生するか評価できると、最終的に浸水域のどこにがれきが集まるのか評価できると思う。（今井委員）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 定量的な評価は難しいが、建物被害結果と津波浸水シミュレーション結果から評価できるか検討する。</li> </ul>